

「道東ブロック技術研修会」～緑豊かな農村環境づくりのための樹林帯再生法を学ぶ～を開催

9月29日、十勝支庁管内士幌町において、「緑豊かな農村環境づくりのための樹林帯再生法を学ぶ」をテーマに、道東ブロック技術研修会を開催しました。

生態学的混播・混植法の権威である北海道工業大学空間創造学部都市環境学科 岡村俊邦教授を講師に迎え、「地域ごとの生態系の保全・再生を考えた、自然に近い森づくりと住民参加による植樹活動」についての講演と実際に現地での技術講習を受けるプログラムとしました。

当日は、天候にめぐまれ、十勝地域やオホーツク地域の活動組織、市町村、NPOをはじめ、北海道開発局、十勝・釧路支庁、水土里ネット北海道など64名が参加しました。

開会にあたり、来賓として士幌町 小林康雄町長からご挨拶をいただいた後、午前の部では、岡村教授から「住民参加による自然に近い樹林の再生法」を演題として講演が行われ、地球規模の自然再生や生態系保全につながる取組の理念について、食料・農業・農村基本法や土地改良法等における環境配慮にもふれながら解説していただきました。

講演の中で、岡村教授は、地域における樹林帯の「理想像」を描くことが大事であり、その理想と現実のギャップを埋めていくような樹林帯の再生が肝要であること、また、蝶の幼虫はその種類ごとに特定の樹木の葉しか食べない事が知られており、こうした豊かな生態系を守るためには、多様な樹種で構成された樹林帯の造成が必要であることなどを指摘されていました。

DVDの映像を使っでの「生態学的混播・混植法」の説明は、非常に分かりやすく、雑草の抑制や土壌凍結による苗の浮き倒れを防止する「マルチング」の方法、地域の在来種を使って行う苗木づくり、従来の植樹とは異なり枝打ちや間伐などの育林作業は不要、樹林の成長をしっかりと見守ることが重要など、自然の力を利用しながら、誰でも参加できる自然林再生法として、大変特徴的で興味深い内容を学ぶことが出来ました。

午後の部では、現地会場に移動し、受講者による植樹、種子採取、播き付けの体験実習が行われました。まず、岡村教授の模範植樹とアドバイスに従い、直径約3メートルの園内にウッドチップで「マルチング」された植樹サークルの中に10種類の苗や種を移植し、植え終わった後は、記録シートに位置と種類、苗の丈を記入しました。植樹体験後は、種子採取と播き付け体験を行って、この日の実習は終了しましたが、今後一年に一度、木の成長記録を続けようと受講者同士で誓い合いました。

最後になりますが、この度の研修会の開催に際し、ご支援、ご協力いただきました士幌町並びにJA士幌町の関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。



岡村教授の講演



岡村教授による現地指導



生態学的混播法による植樹



播きつけ体験



播きつけ完了、質疑応答